

一般財団法人日本心理研修センター主催「平成 27 年度夏季研修会」
～心理臨床の視野を拓げる～

諸領域における心理支援の知識と課題

一般財団法人日本心理研修センターは本年度設立3年目となります。心理職の資質の向上及び協働させていただく諸職種の方々の連携を視野に、本年度から各領域における専門性の向上をテーマに研修会を開催いたします。

【開催日】 その1：平成 27 年 8 月 8 日（土）9:30～16:30（9:00 開場予定）

その2：平成 27 年 8 月 9 日（日）9:45～16:00（9:15 開場予定）

【会場】 東京家政大学板橋キャンパス JR 埼京線十条駅下車 徒歩 5 分

【定員】 合計 約 1,000 名

【参加費】 1 講座 7,000 円

【参加資格】 臨床心理士、臨床発達心理士、学校心理士、特別支援教育士、他の心理系学会認定資格者、心理職実務者、守秘義務のある専門職、心理学関連大学院生（研修ポイントの取扱はHPをご覧ください）

【申し込み予約】 一般財団法人日本心理研修センターホームページより（<http://shinri-kenshu.jp/>）

【共催】 一般社団法人日本臨床心理士会、日本臨床発達心理士会、日本学校心理士会、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会

【後援】 一般社団法人日本心理臨床学会、日本人間性心理学会、一般社団法人日本認知・行動療法学会、一般社団法人日本発達心理学会、一般社団法人東京臨床心理士会、一般社団法人日本発達障害ネットワーク（予定）

<その1：8月8日（土）>

●プログラム第1) 自閉症スペクトラム障害への発達論的アプローチの新動向 (5) 一会話のアセスメントと支援一

9:30～12:30 ASDにおける会話の特性とアセスメント方法、および会話支援の基礎 藤野博（東京学芸大学教育学部教授）

13:30～16:00 関連性理論と ASD 児への会話支援プログラムー明確化要請と修正を中心にー

吉井勘人（山梨大学教育人間科学部 准教授）

16:00～16:30 ディスカッション：会話支援の展望と課題（講師＋参加者）

●プログラム第2) 統合失調症の発症と対応～多領域の心理職のために～

10:00～11:00 概論と新たな展開 佐藤忠彦（社会福祉法人 桜ヶ丘社会事業協会 理事長）

11:10～12:10 伝統的診断から、DSM-5、ICD-11 への展開 中川敦夫（慶應義塾大学病院精神・神経科 講師）

13:10～14:10 生物学的治療の展開：薬物療法、電気けいれん療法 平野仁一（慶應義塾大学病院精神・神経科 助教）

14:20～15:20 神経心理学の治療への展開 田淵肇（慶應義塾大学病院精神・神経科 講師）

15:30～16:30 非生物学的治療の展開：心理社会療法 佐渡充洋（慶應義塾大学病院精神・神経科 助教）

●プログラム第3) 高次脳機能障害の心理支援～成人編～

10:30～12:00 障害認識と受容 阿部順子（岐阜医療科学大学名誉教授）

13:00～14:30 脳損傷後の社会的行動障害と精神症状 阿部順子（前掲）

14:45～16:30 家族のストレスとその軽減 阿部順子（前掲）、古謝由美（全国脳障害友の会副理事長）

<その2：8月9日（日）>

●プログラム第4) 生きるということの責任、生きることを支える法

～クライアントと自分を守り、社会に対する責任を果たすために～

10:00～12:00 <総論> 社会における法の役割 西澤宗英（青山学院大学法学部教授）

13:00～15:00 <各論> 心理専門職と密接に関わる法的問題を考える 西澤宗英（前掲）

15:15～16:00 質疑応答

●プログラム第5) うつ病の見方とその対応ー様々な領域の心理職のためにー

10:00～11:10 1) 概論、診断の考え方 宮岡等（北里大学医学部精神科 教授）

11:20～12:40 2) 生物学的治療（薬物療法・ECT など） 鈴木映二（国際医療福祉大学熱海病院心療・精神科 教授）

13:40～14:50 3) 非生物学的治療（認知行動療法など） 蒲生裕司（北里大学医学部精神科 診療講師）

15:00～15:30 4) 心理職に求められるもの 蒲生裕司（前掲）

15:30～16:00 5) 最近の話題と今後の動向 宮岡等（前掲）

●プログラム第6) 心理臨床とソーシャルワーク～ミクロの課題へのマクロの視点の必要性～

9:45～15:45（途中休憩あり） 武田信子（武蔵大学人文学部教授）

上記プログラム（講師、テーマ、時間等）は予告なく変更される場合があります。最新のプログラムはホームページをご覧ください

【講義概要】

●プログラム第1) 自閉症スペクトラム障害への発達論的アプローチの新動向(5) ー会話のアセスメントと支援ー

自閉症スペクトラム障害(ASD)児者の特性の一つに会話の困難性がある。DSM-5においても「通常の会話のやりとりのできないこと」がASD児者の診断基準として記載されており、会話のアセスメントと支援が重要な課題になっている。近年の言語発達研究では会話発達研究が進展しており、その成果がアセスメントや支援方法に生かされ始めている。もちろん会話は相互的(reciprocal)なものであり、ASD児者の会話の困難性は、「ASD児者に関わる側」の課題でもある。

今回の研修では、藤野博(東京学芸大学)氏から、Bishop(1998)の「子どものコミュニケーション・チェックリスト」を中心にASD児者の会話の特性とアセスメント方法、また支援方法の基礎について学ぶ。また吉井勘人(山梨大学)氏から、語用論(Pragmatics)の公準理論といわれるようになってきている「関連性理論(Relevance Theory)」に基づいた、会話の障害の理解と支援、特に会話における重要なスキルである明確化要請と修正(repair)の支援プログラムについて学ぶ。最後に参加者によってASD児者の会話支援の今後の課題をディスカッションしたい。

●プログラム第2) 統合失調症の発症と対応 ～多領域の心理職のために～

心理職が支援するにあたって知っておかなければならない事柄を基礎的なレベルから学ぶことができます。

●プログラム第3) 高次脳機能障害の心理支援 ～成人編～

高次脳機能障害については昨年度より、研修が開催されており、障害の特性やアセスメント、認知リハビリテーションについて取り上げられてきた。

今回は高次脳機能障害へのアプローチの中でも特に心理的な支援に的を絞った話をする。環境との相互作用の中で生じる行動を読み解き、適応に向けてアプローチするのは臨床心理士の得意とするところであろう。しかし脳を損傷した後で起きてくる行動を理解し、適応に向けたアプローチをするには、器質的な背景を踏まえておく必要がある。

今回の研修は3本柱で構成する(各柱の説明はHPをご覧ください)。

1. 障害認識と受容
2. 社会的行動障害と精神症状
3. 家族のストレスとその軽減

●プログラム第4) 生きることの責任、生きることを支える法～クライアントと自分を守り、社会に対する責任を果たすために～

心理専門職は「こころ」の問題を扱っていますが、「こころ」の問題は社会と密接に関わる場合も多いのではないのでしょうか。社会には「法」というルールが存在します。普段、我々は「法」を意識することはほとんどありませんが、一旦問題が生じると「法」を意識せざるを得なくなることがあります。本研修会では、心理専門職の職務と密接に関わる法的事象にどのように向き合うのか、という理解をすればよいのかのヒントを学びます。

法律相談は、「法律」だけを扱うものではありません。有能な弁護士は、専門分野(法律)はいうまでもなく、クライアントの気持ちをよく聴き、うまく言語化できない場合でも、あらゆる可能性を想定し、本当の問題/相談内容を正確性・スピードをもって解決するといわれています。本研修会を通じて、心理職が社会から信頼されるために何を求められているのかを考える契機となることを願っています。

●プログラム第5) 気分障害(うつ病と躁うつ病)の理解と対応～多領域の心理職のために～

心理職が支援するにあたって知っておかなければならない事柄を基礎的なレベルから学ぶことができます。

●プログラム第6) 心理臨床とソーシャルワーク ～ミクロの課題へのマクロの視点の必要性～

社会における課題にいち早く反応する個人の心の痛みは、カナリアが命をかけて炭鉱の危険を知らせてくれるように、実はその社会のより大きな問題を反映して、私たちの社会に問いを発している。

たとえば、時間に追われる過密な社会の中では、うつ病が発症しやすくなっている。うつ病は本人にとって大きな問題で、臨床心理士による個人療法で回復することはあるだろうが、そもそもどうして日本ではこれほどまでにうつ病が多くなってしまったのだろう。対処療法で対応できる数はすでに超えているのではないかとも考えられる。心理的な問題も、何万人もの人とその家族や同僚が影響を受けるようになったら、国家の問題として、省庁や経済界が動き出すものである。

つまり、マクロな問題がミクロな問題を生み出し、ミクロな問題はマクロにつながっている。個人の心の問題が、その人が生活している社会の価値観、政治、経済、法律、文化など、社会の文脈と密接にかかわっているということを再認識し、カウンセリングの場面でその認識が具体的にどう表れるかを知り、考えてみる必要がある。

本年3月に、北米のソーシャルワークのスタンダードな大学院用テキストの翻訳を監修した講師が、臨床心理士の立場からソーシャルワークの視点や方法を解説します。アクティブなワークを入れた実践的な講座である。